

# 2部

フィールド フィールド  
現場から現場へ

---

# 通信教育部での学び、 踏ん張った2年間を振り返って

## 1 はじめに

私は、数え42歳の厄年にそれまで勤めていた電子部品製造会社を退職しました。その当時は、リーマンショックの煽りを受けて世の中が不況色に染まっていた時期でした。長年勤めてきた会社を苦渋の決断で去ることになった私は社会的弱者となり、これまでとは180度変わった日常を過ごすことになりました。その経験の中で、私は社会的弱者に対する社会の援助の在り方について、いろいろと考えさせられました。そのことが私を東北福祉大学通信教育部へ誘うきっかけとなりました。

## 2 44歳で編入学、そして学びの日々へ

私が最初にしたことは、学習のスケジュールを作成することでした。そうすることで、自分がやるべき1年間の大まかな概要を把握することができました。そして、職場の勤務表と照らし合わせながら月単位の詳細な学習スケジュール表を作り、それに従って学習を始めて行きました。

私は、ユニット型特別養護老人ホームに勤務し、3交代制のシフト業務に従事していましたので、まとまった学習時間が確保できたのは、夜勤入り日と明け日のみ、それ以外は日常の隙間時間を有効に活用し補っていました。

学びの中心はレポート学習でしたが、この学習で私が徹底して行ったことは、レポート課題が自分に対して、『何を問うているか』を正確に理解することでした。これをきちんとおさえることができれば、自分の学習の進め方が格段と早くなります。そして、『問われていること』に対して、

自分は『何を学べば答えることができるのか』を意識しながらテキストや参考文献を読解しました。これを行うことで自分が作成すべきレポート内容の概要をイメージすることができます。このイメージを掴むことがとても重要で、ここまで来ればレポートは7割方完成したようなものでした。後はそのイメージしたことを論述していく。

私は、2年間の学習をこの繰り返しで進めていきました。

### 3 実 習

---

私は、福祉事務所で実習を行いました。強い希望を持って福祉事務所を実習先として選定させていただきましたが、内諾を得るまでに相当な時間を費やしました。なぜ福祉事務所を実習先として熱望したのかと言えば、それは、フィールド的領域で社会福祉援助を必要としている様々な利用者とできるだけ多くの関わりを持って、その方々を実体験の中で理解したいと思ったからです。その自分の想いがあったからこそ、24日間往復200kmの実習先への道のりを踏ん張って通い続けることができたと思っています。

実習前の実習指導者とのオリエンテーションでは、実習指導者に私が大学で社会福祉学を学ぶことに至った経緯と私が福祉事務所で実習を行いたい理由を熱く語りました。このことがあったからこそ、私は実習指導者と良好な関係を築き、自分の実習がとても充実したものになったと確信しています。実習に挑むためには、自分を一度『青臭い』人間に変えなければなりません。そうすることで実習中に遭遇する様々な苦労や困難に対して、自分を見失うことなく全うすることができる。これが実習を終えて、私が導き出した一つの考えになっています。

### 4 国家試験

---

私は、実習開始に合わせて、本格的に国家試験対策を始めました。その

前準備は、4年生になってから少しずつ行っていました。これは国家試験対策をスムーズに行えるように、自分の勉強スタイルに合った市販の過去問題集や参考書を選定したり、ボイスレコーダーを購入して、テキストや参考書に記載されている正文を録音したりと試験対策に向けて環境整備をコツコツ進めていました。

7月中旬から試験勉強を開始しましたが、とにかく過去問題を解いて、不正解部分の解説を繰り返し読み込み、隙間時間を活用して、ボイスレコーダーに録音しておいた正文を聴くことを行いました。年明けの1月からは、市販の模擬問題集（150問4セット分）を使って、解答時間を実践モードに合わせて問題を解き、不正解部分の理解に努めました。過去問をコツコツ解いた努力のおかげでしょうか、面白いことに市販の模擬問題集を解く頃には、設問中の誤っている問題文に対して、直感的に違和感を感じ取ることができるようになっていました。

私は、今回の初受験で合格しましたが、振り返ってみると試験対策に使った学習書を自分の勉強スタイルに合ったものとして選定できたこと、そして過去問題をひたすら繰り返し解き続けた努力が自分の助けとなって報われた結果をもたらしてくれたと思っています。

## 5 最後に

---

2年間の学生生活を無事終えることができたのも、私を支えてくれた妻や子どもたち、そして学びの場を通して私に関わってくださった先生方、スクーリングを通して接してくださった学友の皆さまのおかげだと感謝しております。苦労が絶えなかった時間は、今となっては良き思い出です。この2年間の学びを糧にこの世の中で私を必要としてくれる方々のために、がんばって行きたいと思っています。